



5月！

いよいよ5月！ 入学式から早1ヶ月、もうすっかり日比谷生になったことだろう。その日比谷生らしさを発揮する第一弾、「体育祭」が金曜日に近づいてきた。

知っての通り、日比谷の2期制は「動の前期、静の後期」である。前期は、さまざまな行事を通してクラスのまとまりや友人関係を育て、後期には、それを生かしてしっかりと学力を伸ばしてもらおうことになっているのだが、今、「学力と、クラスのまとまり・友人関係って関係あるの？」と思った諸君、これが大ありなのである。

確かに定期考査とか入試とかは（クラス全体で受ける訳ではなく…）個人で受ける。だから、一人一人が力を伸ばせばイイように思うかも知れないし、さらに露骨に言えば、東大に受かりそうな人だけをターゲットにした授業をすればイイように思うかも知れない。ところが、それではなかなかイイ結果が出ないのである。いくら成績のイイ人がいても、学年全体の成績が今一つだと、どういうわけか全体的な入試の結果も今一つになってしまうし、成績のイイはずの人も、思ったような結果を残せないことになってしまうのである。不思議なものである。

こういう訳で、我々は、常に学年全体の成績の伸びに注目している。つまり、トップの一握りを伸ばすのではなく、学年全体のレベルアップを目指した指導をするのである。

だから、授業時のクラスの雰囲気にも常に注目することになる。もう日比谷の授業を受

けて分かってきているとは思いますが、授業は何も先生方だけの独演会ではない。先生方と君たちとの共同作業＝創作なのである。その共同作業＝創作のレベルが高ければ高いほど、君たちの実力も高まるし、結果として入試の結果なども向上することになるのである。

つまり、クラスのまとまりや良好な友人関係は、力を伸ばす授業を作る上で必須なものなのである。先生方の問いかけに対してイイ意見が出、それを更に高めていけるようなクラス、つまり、先生方と共同作業＝創作をすることで、レベルの高い授業を創造できるクラスが、クラス全体で力を伸ばしていけるのである。そして、そういうクラスが多ければ多いほど、学年全体の成績も向上し、結果として素晴らしい成果へと結びつくのである。

＊

というわけで、目の前の体育祭、何気なく臨むよりは、しっかりと練習して臨んだ方が楽しいに決まっている。勝ち負けにもこだわりたいところだが、それ以上に、練習の中でクラスの力を伸ばすことが大切なのである。

一方で、スポーツが苦手な諸君もいる。そういう人の感じるプレッシャーや「イヤだなあ～」と思う気持ちにも配慮しよう。誰だって嫌いなことはあるのだ。

逆に、スポーツの苦手な諸君、自分のできる範囲でイイから、がんばっている人の足を引っ張らないように協力しよう。結果は気にすることはない。やろうとする気持ちが大切なのであり、それは必ず周囲に伝わるはずだ。